

東日本大震災における北九州市の復興にかかる関わりと 防災体験学習の取組について

1 被災・復興に関する取組について

(平成23年3月12日から令和3年3月31日まで)

(1) 人的支援(職員派遣)

平成23年3月12日から令和3年3月31日までの間に、4県18市町の東日本大震災被災地に、601人の職員を派遣した(うち釜石市への中長期派遣95名)。

《派遣内訳》

県	派遣市町	派遣人数
岩手県	釜石市、盛岡市、陸前高田市他	463人
宮城県	仙台市、気仙沼市、石巻市他	72人
福島県	福島県内、いわき市(※)、郡山市	56人
茨城県	行方市、高萩市、北茨木市	10人
計	4県18市町	601人

※うち、いわき市 13名

(2) 金銭的支援

義援金	平成24年9月30日までに寄せられた義援金は、総額約4億200万円中央共同募金会を通じて、被災者へ届けた。
市見舞金	平成23年3月31日、岩手県、宮城県及び福島県に対し各3,000万円、仙台市に対して1,000万円の計1億円を、北九州市から見舞金として送金した。

(3) 物的支援

平成23年3月12日から9月26日までの間で、北九州市の備蓄物資を7回、市民・企業からの提供分18回、計25回被災地に搬送した。

市民等からの 事前登録件数	1,756件(平成23年4月22日で登録停止)
搬送先	宮城県:11回、岩手県:12回(うち釜石市:10回)、福島県:1回、茨城県:1回
主な物資	飲料水:2ℓペットボトル 27,610本分、レトルト食品:27,018食、マスク:442,900枚、歯ブラシ:131,100本、アルコール消毒剤:4,060ℓ、石けん:3,743個、米:1,580kg等

(4) 被災者支援

『絆』プロジェクト北九州会議」による支援（平成 25 年 3 月末で終了）

発足以降、125 世帯、291 人の避難者を受け入れ支援した。

寄付金等、約 6,500 万円が寄せられ、1 世帯あたり 10 万円の臨時見舞金の支給等を行った。

・住宅支援

≪公的住宅の入居実績≫

※市営住宅等を無償提供

	累積入居決定数
公的賃貸住宅	44 世帯・113 人
雇用促進住宅・UR 住宅	12 世帯・ 28 人

≪民間住宅の入居実績≫

※民間住宅所有者からの申し出により無償又は廉価で住宅を提供

	累積入居決定数
民間住宅	9 世帯・23 人

(5) 災害廃棄物の受け入れ

宮城県石巻市の災害廃棄物処理

平成 24 年 9 月中旬～平成 25 年 3 月末まで 22,616 トンを処理した。

(6) その他の支援

釜石市バックアップデータの保管

令和 7 年 3 月末まで釜石市の住民情報データを北九州市でバックアップ保管した。

2 防災体験学習の取組について ～ 北九州市の防災体験学習～

体験型の防災啓発として、市民の身近な場で気軽に体験していただけるよう、以下の事業に取り組んでいる。

(1) 学校や地域などへ地震体験車の派遣 (令和6年度は約6,500人)

(2) 小学3年生対象の「消防士さんといっしょ」事業 (令和6年度は約7,000人)

- ・ 火災時の煙体験
- ・ 消火器訓練
- ・ 119番通報訓練



消防士さんといっしょ

(3) 各区の防災訓練 (令和6年度は約2,700人)

- ・ 避難所開設訓練
- ・ 炊き出し体験
- ・ 携帯トイレ取り付け体験
- ・ 水圧ドア開放体験
- ・ 車イスを押しての避難体験



避難所の開設訓練



車イス避難体験

(4) 防災体験イベントの実施

令和5年12月には、子どもやその親世代をメインターゲットとした「北九州市防災フェスタ」を開催し、消防局や自衛隊等による特殊車両展示や防災訓練の実演、NPO団体による遊びながら防災を学ぶイベントなど、防災を体験できるイベントを実施した。

また、令和7年8月には「備える防災の日2025」を開催し、防災関連企業や学生などと連携して、防災活動発表会や体験型(災害シミュレーションVR、防災クイズ、遊びながら防災を学ぶコンテンツ等)の防災ブースを出展した。

